

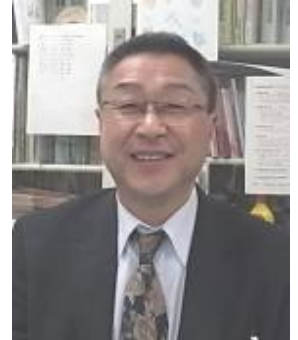
とらいあんぐる菅生

<http://sugaochikyou.web.fc2.com>

E-mail:toraianguru@mx81.tiki.ne.jp

校長先生を訪ねて:2 菅生小学校の巻

柴崎 淳校長先生



柴崎先生は、菅生小の教頭として2年、校長として3年目を迎え、長く菅生地域と関わられ、子どもたちだけでなく、地域とのコミュニケーションも大切にされています。

◆スポーツを通じてコミュニケーション

水泳などスポーツ好きの校長先生は、昨年、「スポーツを通じて子どもたちや地域のコミュニケーションを深めていくこと」を趣旨とした、地域総合型スポーツクラブ(「仮称」菅生スポーツコミュニティクラブ(S・S・C・C))の設立準備委員会を立ち上げています。準備段階でありながら、今年の平瀬川さくら祭りでは、キッドビクス(子ども向けのエアロビクス)に参加した菅生小・稗原小の子どもたちが、かわいらしい演技を披露し、子どもたちの地域参加が実現しました。

◆道徳の授業でコミュニケーション

学校では具体的にどのようなコミュニケーションをとられているのかお聞きしました。

まずは、できるだけ授業を参観するようにしているそうです。特に6年生については道徳の授業を校長先生自らがを行い、子どもたちの考え方を知る機会にもなっているそうです。

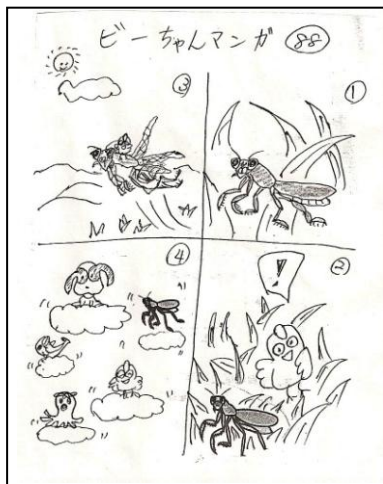
子どもに「なぜ勉強するのですか?」と質問されたときには「自分を見つけるため」「個性を見つけるため」と答えたそうです。小学校の勉強は、良い成績をとることが目的ではなく、基礎学力と、人としての基礎を身につけることが大切という考え方からのことでした。

◆4こまマンガでコミュニケーション

また、コミュニケーションツールとして、ちょっとした時間の合間に殆どセリフがない4こまマンガを描くと、子どもたちが想像して色々と話をしてくれるそうです。4こまマンガをもらいに校長室へきてくれる子どもたちが、お返しに絵などを描いてくれることもあり(校長先生の席の後ろに飾ってありました)、大変コミュニケーションの役に立っているそうです。また、直接話しをしづらいこともあると思うので、校長室前に鍵つきのポストを設置してあり、悩み事や相談はそこへ入れられるようにしています。

◆音楽集会でコミュニケーション

年に2回、音楽集会を開き、地域の方にも聴きにきていただいています。歌うこと(声を出すこと)は心の開放にもなりますし、チームワークや子ども同士の絆も深まります。また、6年生が菅生中学校へ行き、歌の交換をしてきました。中学生の素晴らしい歌声に感動するとともに、中学生から「良かったよ!上手だったよ!」と褒められ、照れながらもとてもうれしそうでした。こんなことから縦の関係のコミュニケーションもとれていくのではないかとのことです。

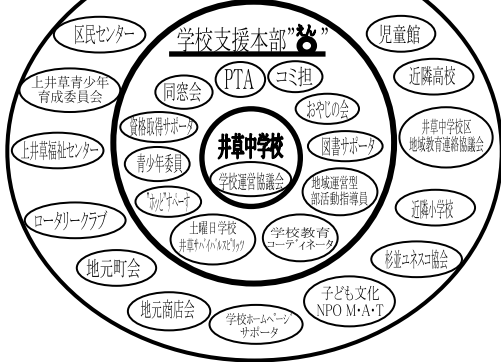


◆取材を終えて

お忙しい中、貴重なお時間をいただき、お話を聞きました。校長室からは校庭が一望でき、子どもたちが、元気に過ごす姿を、親と同じように、暖かく見つめている姿が目につくような優しい校長先生でした。ありがとうございました。

今、私たちにできることは？

井草中を取り巻く地域力



菅生中学校区地域教育会議では、昨年 11 月から今年 2 月にかけて、菅生分館（教育委員会）と共催して、家庭・地域教育学級を開催しました。第 3 回、12 月 11 日には、東京都杉並区立井草中学校の学校支援本部について、辻田浩和さん〔井草中学校運営協議会委員、学校支援地域本部会長、元 PTA 会長〕、江畑洋子さん〔井草中学校運営協議会委員、土曜日学校副委員長、元 PTA 副会長〕、寺田節子さん〔井草中学校校長〕の 3 人にお話をうかがいました。講義の抄録と参考資料、参加者の意見感想を掲載します。多くの方と「いま、私たちにできること」を考えたいと思います。

学校・地域・家庭の協働の可能性を探る 杉並区立井草中学校学校支援本部

◆杉並区と井草中学校の概要

杉並区（人口 52 万人）には小学校 45 校、中学校 23 校ある。杉並区では平成 14 年度から隣接校に限っての学校希望制度を導入。平成 16 年には小学校 2 校、中学校 2 校に学校運営協議会を置き地域運営学校（CS：コミュニティスクール）に指定した（現在 12 校）。平成 17 年度に教育ビジョンを策定、学校と地域との連携を主眼に教育特区の宣言をした。18 年度に区内全校に学校支援本部設置計画を策定し、現在 68 校中 52 校で実施中。

「学校支援本部」とは、学校内に同本部を置き、その基で地域住民が学校支援ボランティアとして学習支援活動や部活動の支援などを行うと定義されている。平成 20 年度からは文科省の事業として全国展開されている。

井草中学校（以下井草中）は杉並区の北西のはずれ、西武新宿線沿線の緑が多い地域にある。生徒数 399 名、教員数 25 名、特別支援学級（知的障害）1 学級。平成 18 年、和田中と同じ頃、学校支援本部を設置。その翌年、区から地域運営学校に指定された。

◆学校運営協議会と学校支援本部の役割分担

井草中学校運営協議会委員の行動目標は①地域の学校としての井草の特徴を活かした安心、安定した教育をめざす学校 ②地域、家庭、学校の情報を共有して地域づくりに貢献できる人材を育成する、とされており、学校経営の企画、検討、審議を行うところで学校経営計画承認、人事具申、学校評価を行う。一方、支援本部は学校支援団体からなる地域の人間による学校支援の実働部隊である。この関係は協働して学校を良くする立場のイコール・パートナーである。

◆井草中学校学校支援本部の活動

学校支援本部「〃〇（えん）」は毎月 1 回学校支援本部の会議を開き、各支援団体の交流の場を提供する。各団体の活動報告や、学校からの支援要望や区からの予算

配分など調整を図る。実際の活動は、支援団体がそれぞれ独自の学校支援活動をしている。学校支援本部には入っていないが、日常的に協力をしている団体もある。

学校支援本部の主な構成団体は、PTA、同窓会、学校教育コーディネータ、青少年委員、図書サポート、資格取得サポートなど。さらに実際の活動として生まれたものとして、土曜学校（現在は「井草サバイバル・スピリット」。中学生と地域の大人が地域のイベントなどでボランティアを行う）、「ホッとすぱーす」（子どもの居場所として図書室を開放。地域の大人とおしゃべりやゲームなどをして過ごす空間。）、おやじの会（綿アメ・焼きそば・ヨーヨー作り、土曜日学校講師、など何でもやる。地元の交流が少ない父親にとっては地域で飲めるのも嬉しい。）、地域運営型部活動連絡会などがある。

今年新たに学級サポート制度に取組み始めた。地域の人が新 1 年生の学級サポート（コミュニティ担当）となり、各種行事に参加。1 年生が早い時期から地域の人に接する機会をもち、親・教師以外の大人との関係ができ、社会性の醸成などに役立つのではないかとと思う。

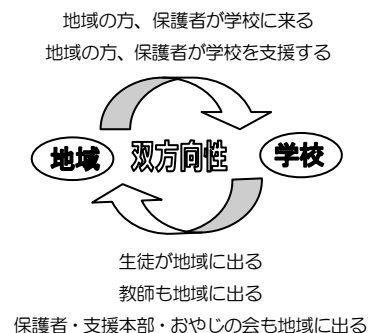
◆井草方式のキーワードは「双方向性」

これまでは「地域の人学校へ行く」だったが、生徒が地域に出る、教師も地域に出る、さらに、おやじの会、保護者、学校支援本部も地域に出るというように、行ったり来たり双方向になってきた。この「双方向性」が井草方式であると考えている。

国際交流事業、職場体験、地域交流事業など、学校の授業や行事にも多くの方々が地域の事業に参加してくれた。

◆地域と教師の相互理解のために

住民と先生が仲良くなるには、先生が地域の人や保護者は自分を助けてくれる人であると



分かることが必要。井草中学校でも、応援してくれる地域の方がたくさんいることを教員に伝え、地域の人たちと交流会を何度も行って相互理解を深めてきた。校長・教職員と地域住民、保護者が相互に敬意を表し合うことが一番のキーポイントだと思う。

菅生分館家庭・地域教育学級に参加した方たちの意見・感想から

○やはりどこも日本では、子どもが住みづらい、生きづらい世の中ですね。今、自分の子が素敵な先生や地域の方に学校で会うことは少なくて残念ですが、自分が井草中の様な活動をする事ができれば、自分の子も変わることができるでしょうか。「地域は学校を攻撃しない」この言葉はキモに命じます。

○「子どもに限られた人としか接していない⇔教員も限られた人としか接していない」「専門家に任せるということは孤立化につながる」「双方向性」このような言葉が印象に残りました。もうひとつ、やはり校長の考え方が“学校を左右”することになる。つまり“教育は人”なんだと思います。ただ杉並のすごさは、教師を選ぶという“制度化”があることがスゴイと感じました。

○私は何が出来るという訳でもありませんが、地域で子どもたちに何か出来ないか…と思っています。個人、独りでも志を持って、何かを続ける事が大事と思いました。まず学校・教員に対して攻撃をしない事、心を開くことから始めていこうと思います。

参考資料 井草中学校学校支援本部活動報告の中でふれられた制度についてのミニ解説

(1)コミュニティ・スクール(地域運営学校)

保護者や地域住民が一定の権限と責任を持って学校運営に参画することにより、そのニーズを迅速かつ的確に学校運営に反映させるとともに、学校・家庭・地域社会が一体となってより良い教育の実現に取り組むことがねらいとされています。

文部科学省により平成16年6月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、公立小中学校に「学校運営協議会」を設置することができるようになり、学校運営協議会を設置している学校を、教育委員会の判断で「コミュニティ・スクール」「地域運営学校」と適宜名称をつけることができることになりました。

学校運営協議会は合議制の機関として、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の第47条の5の規定に基づき学校運営、教職員人事について次のような権限が与えられています。

- ①教育課程の編成その他教育委員会規則で定める事項について、校長が作成する基本的な方針の承認を行う。
- ②コミュニティ・スクールの運営に関する事項について、教育委員会又は校長に対して、意見を述べる。
- ③コミュニティ・スクールの教職員の採用その他の任用に関する事項について、任命権者に対して直接意見を述べること

ができ、その意見は任命権者に尊重される。

川崎市では、平成18年12月に川中島小学校・東小田小学校、南河原小学校、上丸子小学校、東橋小学校、土橋小学校の6校が指定され、20年12月に中野島中学校、金程小学校の2校が指定され、現在8校となっています。

※学校運営協議会と学校評議員について

学校評議員制度は、平成12年4月の学校教育法施行規則等の改正によって制度化されたもので、校長の求めに応じて、学校運営について意見を述べるものであり、学校運営協議会のように学校運営に直接関与したり、拘束力を持たないとされており、文部科学省は、学校評議員が十分な実績を持つ場合には、学校運営協議会への移行を推奨しているようです。

(2)学校支援地域本部

学校支援地域本部は学校の教育活動を支援するため、地域住民の学校支援ボランティアなどへの参加をコーディネートするもので、いわば“地域に作られた学校の応援団”と言うべきものとして、文部科学省が平成20年から事業化しました。

学校支援地域本部は、基本的に「地域コーディネーター」「学校支援ボランティア」「地域教育協議会」から構成されません。

菅生分館 家庭・地域教育学級 ～子どもたちに居心地の良い家庭・学校・地域って？ とともに学び、考えよう～

詳しい講義概要は、<http://sugaochikyuu.web.fc2.com> でご覧いただけます。

	日 時 (実施済み)	課 題	講 師
第1回	平成21年11月6日(金)	今、教育に何が起きているのか	尾木直樹 (教育評論家・法政大学教授)
第2回	平成21年1月27日(金)	私たち大人の「学校観」を問い直す	福田誠治 (都留文科大副学長)
第3回	平成21年12月11日(金)	学校・地域・家庭の協働の可能性を探る	杉並区立井草中学校学校支援本部
第4回	平成22年1月22日(金)	自分自身の子ども時代を振り返ろう	大枝奈美 (アトリエエイブ代表)
第5回	平成22年2月5日(金)	子どもたちの心に、何が起きているのか	北村年子 (ルポライター)
第6回	平成22年2月19日(金)	子どもの心に寄り添うために	西野博之 (子ども夢パーク所長)

菅生中学校区子ども会議の紹介 自分たちでできるまちづくり

昨年 12 月に始動した子ども会議ですが、その後1月～4月に3回のミーティングを開き、自分たちができる菅生のまちづくりについて考えてきました。これまでのところ、「安全なまちづくり」や「川をきれいにしてあそぶ」、「たまり場探し」、「大人との対話」といったテーマに絞られてきました。次回からは、すぐ実行できることと長期的な展望をもって活動できることなどを具体的に考えていきます。いつでもメンバーになれます。
問合せ：植村先生、川原先生、生駒(977-9306)



算数名人 子どもたちに大好評!

稗原・菅生小学校への学習支援活動

菅生中学校区地域教育会議の生涯学習委員会は稗原小学校と菅生小学校より「習熟度の引き上げと地域とのふれあいを目的に低学年の算数の授業を手伝って欲しい」との要望を受け、2年生、3年生の算数授業の支援を行っている。

支援に先立ち児童たちが混乱しない様に、担当の先生方とは具体的な支援の手順や教え方について話し合いを行い、支援当日には先生が用意した指導要領書と先生の指示に従って、生徒達をグループ別、又は個別に先生と一緒に教えている。

先生が子どもたちに算数名人の感想を聞くと我先にと手を挙げて「算数が好きになってきた」「算数名人の時間が楽しみ」「算数名人のおかげで問題の解き方が解った」「100点をもらい自信がついた」など大

好評。

現在、算数名人は菅生小4人、稗原小7人。「算数が好きになるかどうかの大切な学年」「地域の子どものために頑張りたいと手を上げた」「成長する児童の姿が楽しみ」と算数名人は言っている。

稗原小学校岡部校長は「生徒が地域の方との様々なふれあいから、多くのことを学び、特に算数名人には感謝の気持ちが溢れて成果は大きい。新年度も担任の先生と相談し、早い時期から支援をお願いしたい」と話している。

菅生小学校柴寄校長は「好きな学科の調査結果、算数は上位に躍進、成果は大きいと見ている。新年度も早い時期から支援依頼を考えている」と話している。

事務局移転のお知らせ

菅生中学校区地域教育会議は、菅生こども文化センターに事務局をしていますが、菅生こども文化センターの建て替えに伴い、平成22年度は菅生こども文化センター仮事務所に移転します。



今年度の児童・生徒数

菅生中学校	495名
(内新入生)	154名
菅生小学校	633名
(内新入生)	84名
稗原小学校	557名
(内新入生)	91名

平成22年4月1日現在

電話番号は変更ありません

☎044-976-0444

住所：川崎市宮前区菅生 3-34-9

カームドエル 105号室

旧道・電話ボックス前のマンション1階